

実習日：平成 28 年度第 I 期 7 月 6 日

実習先：アルメイダ病院

大学名・学年：神戸学院大学 5 年

氏名：足立冴美

大分ゆふみ病院で実習させていただくにあたって、はじめは昔来たことを思い出して実習中つらくなったり集中できなかつたりしないか不安でしたが、1 日中色々な体験をさせていただいていたので、そんな不安に思う時間なんてありませんでした。

患者さんの誕生日のお祝い、入院患者さんと薬剤師がどのような会話をしているかの見学、患者さんたちとのティータイムなど、患者さんと直接関わったのは私にとって貴重な体験となりました。ティータイムでゆっくりとコーヒーを飲みながら、ピアノやオカリナの演奏を聴いていた患者さんが「部屋からでてきてよかったあ。」とぼつりとつぶやいたのを聞いて、この時間は患者さんにとって大切な時間だなとしみじみと感じました。

また、患者さんのすぐ傍で家族が過ごせるような座敷やソファベッド、キッチンが完備されていたり、家族との思い出が作れるように多くのイベントが開催されていたり、遺族の方のメンタルケアのためのお話する機会を設けていたり、患者さんだけでなく患者さんの家族にもすごく配慮されているのだなと思いました。

今回実習で訪問する際に私は、ホスピスでの薬剤師の役割や他のスタッフとの連携がどういったものかを知ることが目標とし、実習に挑みました。

薬剤師の先生は一人では手が足りないのではという印象を受けましたが、他のスタッフに手伝っていただけるため、人手は欲しいけれどいないと困ることはないとのことでした。使用頻度も量も高い麻薬の管理はやはり徹底されており、実際に購入する際や保管の際にはどのようなことに気を付けるべきかロールプレイや講義を通して、しっかりと学ぶことができました。

大分ゆふみ病院はスタッフのみなさんが明るく、患者さんへの配慮が細やかで優しく、とても居心地の良いところだと感じました。1 日という短い時間ではありましたが、お忙しい中、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。